

「臨地実習指導者研修セミナー2016」評価：指導へのモチベーションの向上

著者	吉田 文子, 清水 千恵, 塩入 とも子, 大和田 由希, 橋本 佳美, 鈴木 千衣, 八尋 道子, 征矢野 あや子, 吉田 和美, 吉川 三枝子
雑誌名	佐久大学看護研究雑誌
巻	9
号	1
ページ	41-50
発行年	2017-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1050/00000194/



活動報告

「臨地実習指導者研修セミナー 2016」 評価：指導へのモチベーションの向上

Evaluation of 2016 Nursing Practicum Instructor Seminar (NPIS):
Enhancing Personal Motivation for Teaching

吉田 文子 清水 千恵 塩入 とも子 大和田 由希 橋本 佳美
鈴木 千衣 八尋 道子 征矢野 あや子 吉田 和美 吉川 三枝子

Fumiko Yoshida, Chie Shimizu, Tomoko Shioiri, Yuki Oowada,
Yoshimi Hashimoto, Chie Suzuki, Michiko Yahiro, Ayako Soyano,
Kazumi Yoshida, Mieko Yoshikawa

キーワード：臨地実習指導者，モチベーション，評価

Key words : Practicum instructor, Motivation, Evaluation

Abstract

The purpose of this report is to evaluate the 2016 Nursing Practicum Instructor Seminar (NPIS) using questionnaires from participants. Forty-one nurses attended the full NPIS, and 100% returned their questionnaires ($N=41$). One hundred percent reported that the NPIS was motivating for their teaching student nurses. According to their free comments, they will utilize knowledge and skills learned with students, colleagues, and in other situations.

In addition, 95.1-100% of the nurses met each objective of the seminar. The level of satisfaction for all nine sessions was 92.7% ($N=38$). Thus, the overall evaluation of the NPIS by the nurses was that it was a success. Some topics were suggested through their free comments for the NPIS of 2017.

要旨

本報告は、「臨地実習指導者研修セミナー2016」実施後の受講者に行ったアンケート調査の結果から本セミナーが受講者にもたらす効果として、指導へのモチベーション向上や今後の指導への活用につながったか、について自由記述を基に評価したものである。全プログラム受講者へアンケートを実施し、41人(回収率100%)から回答を得た。受講者41人(100%)が、本セミナーによって指導へのモチベーションの向上があったと回答していた。今後の指導への活用については、学生指導場面、スタッフ指導場面、その他の場面でそれぞれに自由記述があった。

本セミナーの目標達成度は、95.1~100%であり、セミナーへの満足度については、92.7%が満足したとしていた。さらにその評価より次年度の企画への示唆がいくつか得られた。

受付日 2016年7月25日 受理日 2017年1月26日
佐久大学看護学部 Saku University School of Nursing

I. 緒言

「臨地実習指導者研修セミナー」として実施の本企画も今年度で6回を終え、参加者はこの6年間で述べ246人(平成23年43人、平成24年32人、平成25年46人、平成26年42人、平成27年41人、平成28年42人)となった(吉田ら, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016)。各年度のプログラムでは、前年度の評価より微修正を加え、さらに平成26年には、プログラム開発への課題を見出す機会として、例年の指導者向けセミナーの紹介用として看護管理者版を作成し看護管理者を対象に実施したところ、本プログラムでの継続希望が確認された(吉田ら, 2015)。そこで今年度は受講対象者をさらに広げて募ることとした。

本セミナーの特徴は、成人学習者の学び方を活かせるよう、受講者が相互に語りそこで学びが掘り起こされるように構成されていることである。受講者が他者と自身の経験を共有することは、フレイレの相互に主体的に問題や課題を選びとり現実世界への変革をおこさせる課題提起型の教育(Freire & the children of Paulo Freire, 2010)につながる。すなわち受講者の経験を他者に伝えることで自身に内在する問題の意識化を可能にさせ、それが人間本来の学習欲求に移行し、学びを深化させていくと考えられる。これらのことから本報告では、本セミナーを終えた直後の受講者への調査結果より、セミナー全体ならびに受講者の指導へのモチベーションや、セミナーで得た知識の活用場面についての評価を行うことを目的とする。

II. 今年度「臨地実習指導者研修セミナー」の概要

1. 受講対象者への呼びかけ

対象者を例年の長野県下の実習先施設、卒業生就職先に加えて、近隣1都10県(茨城

県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・新潟県・石川県・富山県)の施設へ参加を募った。また、本学臨床教育講師についても参加案内をした。

2. プログラム

1) 日程は8月第2週の3日間を設定した(表1)。

2) 学士教育課程の特徴は、我が国の教育改革の動向から捉えられるよう工夫した。

3) 学びの過程で生じる全てを歓迎し、自分を躊躇なくさらけ出せると感じる「場(学習環境)」を提供するように努めた。そこで受講者には①学びの過程として自然に生じる失敗を安心して体験できる場であることと、②それを実現するルール(他者の発言を失笑しないなど)があることを伝えた。

4) 各セッション(講義・演習)の内容

●第1セッション「看護教育の目的と方法」では、ICNの看護学教育の目的を確認するとともに、受講者のこれまでの教育観・学習者観を「ふりかえる」機会とした。また、このセッションは導入のセッションとなるため、アイスブレイキングを入れて始めた。

●第2セッション「実習要項をふまえた指導のありかた(演習)」では、実習要項の使い方を事例から確認できるようにした。事例文は、例年の基礎看護学実習に領域実習を加えたものを用意し、学生のレディネスをふまえて実習指導のあり方を考察できるようにした。またグループ討議とその発表を講師がタイピングし、内容を可視化(共有化)できるようにした。

●第3セッション「看護倫理」では、専門職としての看護師が倫理的感受性を持つことの意味と「看護師の倫理綱領」を解説した上で、学生が体験しやすいジレンマケースを用いて倫理的課題の明確化とその解決の仕方について、枠組みを用いて対話しながら学べ

表1 プログラム

日時/教室	分	内 容	担当者
8月8日(月) 9:30- 9:40		開会	堀内ふき
受付 9:00~		オリエンテーション	大和田由希
1200 教室 9:40-11:10	90	看護教育の目的と方法	吉田文子
11:20-13:50	90	実習要項をふまえた指導のありかた(演習) (昼休憩 60分程度含む)	征矢野あや子
14:00-15:30	90	看護倫理	八尋道子
15:40-16:10	30	2日目の課題説明とビデオの視聴	橋本佳美
9日(火) 9:00-11:30	150	看護観の再構築	橋本佳美
1200 教室 11:40-12:40	90	交流会	清水千恵、塩入とも子
13:00-14:30	90	キャリアビジョン	吉川三枝子
14:40-16:10	90	より効果的な指導と指導者の役割	吉田和美
16:20-17:00	任意	PC文献検索等 図書館 司書: 佐藤	
10日(水) 9:00-10:00	60	看護学士課程カリキュラムの特徴	吉田和美
1200 教室 10:10-12:10	120	実習記録へのコメント(演習) 昼休憩	鈴木千衣
13:20-14:50	90	教育観の再構築 アンケート	吉田文子
15:00-15:30		修了証授与・閉会	坂江千寿子

るようにした。

- 第4セッション「看護観の再構築」では、「自身の看護実践エピソード」を、グループメンバーに伝える(共有する)ことから始めた。互いに質問をするなどの過程によって、個々の看護実践を分かち合い、日々の看護で何を大切に実践しているのかをふりかえり、グループごとに結果を発表した。そこへさらに講師がコメントを加え、看護観の再構築を支援した。
- 第5セッション「キャリアビジョン」では、目標を受講者のキャリア開発支援とし、各自で自分史をキャリア発達として改めてふりかえる体験の後に、今後のキャリア開発・形成への方法・あり方を提供した。
- 第6セッション「より効果的な指導と指導者の役割」では、ワークシートを活用して実習中の学生の立場を追体験してもらい、臨地教育の目指す学力が学生に培われるた

めの指導者の役割、指導者と教員の協働について考えを深める機会とした。

- 第7セッション「看護学士課程カリキュラムの特徴」では、看護学教育の現状と背景を概観し、指定規則に留まらない学士課程教育のねらいや今後の大学における看護系人材の育成のあり方を解説した。さらには文部科学省資料を参考に「高大接続」改革と新しい教育の方向性について概説し、大学教育がめざすところを確認する機会とした。
- 第8セッション「実習記録のコメント(演習)」では、学生の経験を掘り起こすツールとしての「実習記録」を活用した指導方法について考える機会とした。演習事例の「実習記録」に各自でコメントを記入した後、グループ討議を行い、各自の教育観や指導の在り方を共有し、同時に看護の学部生のレディネスについても多面的に情報共有した。

●第9セッション「教育観の再構築」では、教育評価・評価者バイアスの観点から実習目標の明確化が必要であることや、学習者は評価者によって学習行動を変化させてしまうことを説明した。続いてセミナー初日の自身の「教育観」を現在のそれと照らし合わせ、あらためてふりかえり、再検討し、各自が自己の「教育観の再構築」を図る機会とした。

Ⅲ. 受講者アンケートの実施と結果の考察

1. アンケートの実施方法

アンケートへの協力依頼は、3日間の全プログラム終了時に出席の受講者41人に呼びかけた。アンケートの目的を口頭で説明し、趣旨に賛同が得られる場合は、その場で記入をお願いし、会場出口に設置した回収箱に入れてもらうようにした。なお、アンケートは連結不可能匿名化で実施した。

2. アンケートの構成

設問は、セッションごとに「参考になったか」を尋ね、さらにセミナー目標の到達度についても調査した。

回答方式は、4件法(1 to 4)、【1-思わない】【2-あまり思わない】【3-やや思う】【4-思う】とし、一部自由記述による回答を求めた。

3. アンケートの結果と考察

回収率は100%(41枚)であった。

1) 各セッション(講義・演習)

9つのセッションを通して、「参考になった」「やや参考になった」は、85.5%~100%で推移していた(図1)。第5セッション「キャリアビジョン」と第7セッション「看護学士課程カリキュラムの特徴」は、昨年と比較(吉田ら, 2016)すると2割ほど高くなっていた。

これは、第5セッションを受講者自身のキャリア開発を支援するためのセッションとして設けており、講義展開を受講者の反応により即させた結果ではないかと考えられる。また、第7セッションは、指導者の学生指導の際の一助となるよう学士教育課程と看護学教育の刻々と変化発展を遂げる今日の動向を歴史的にも解説するセッションとして設けられており、受講者の8割強がその意義を感じている。今年度は特に、①小中高の教育現状と大学生の状況、②昨今の教育答申(文部科学省, 2016)にある高大接続についての観点

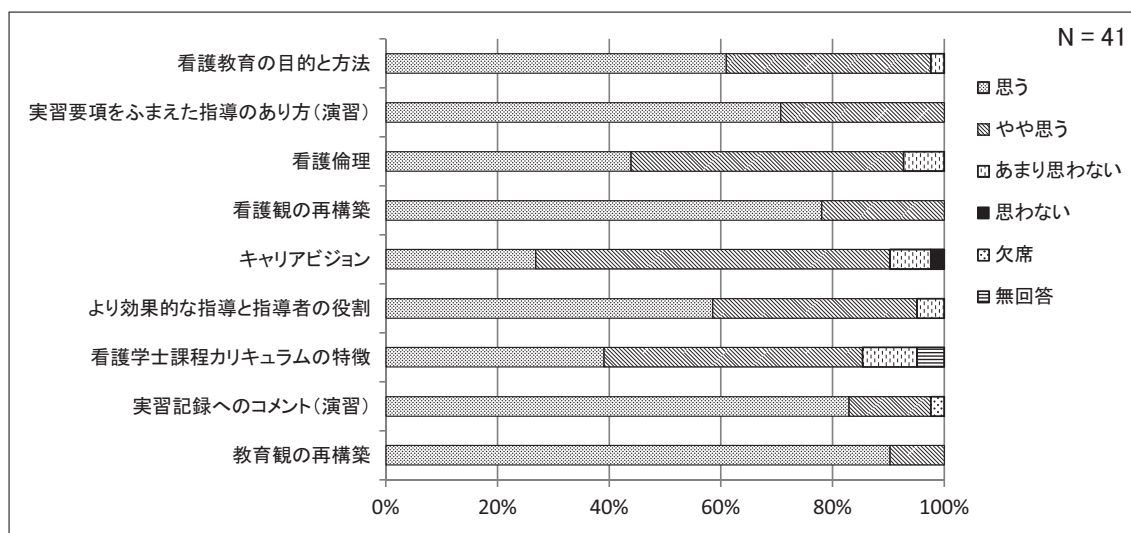


図1 各セッション(講義・演習)

から学生や、大学教育の新たな方向性を解説した学士課程教育の概説が、身近な関心として捉えられた可能性があると考えられた。

他の講義・演習のセッションは、例年と同様の回答傾向であった。企画の都合上、演習セッションの一部を昨年度と違う時間帯へ入れ替えたものの、「参考になった」「やや参考になった」という回答の多さは昨年度と同様であった。これは、演習をプログラムの導入セッションとして、また他方では、まとめのセッションとして行うことで受講者がもつ経験を学習動機へ結びつけやすいということに対応できているのではないかと考えられた。

2) 指導へのモチベーション

指導へのモチベーションについての問い「指導へのモチベーションをさらに向上させることができた」は100% (41人)であった(図2)。その理由を自由記述で求めたところ、54のコード、8つのカテゴリ【指導方法の獲得】、【学生への接し方の変化】、【ふりかえりの実施】、【指導者役割の再確認】、【悩みの共有化】、【看護観の再構築】、【学生と一緒に学んでよい】、【その他】が抽出された(表2)。記録が最も多かった【指導方法の獲得】(19)では、実習目的・目標による学生指導のあり方、学生の記録へのコメントのし方、新たな指導方法や改善点などの記述があり、本セミナーの目的である効果的な指導方法が理解できていたと考えられた。次に多い記録【学生への接し方の変化】(8)では、学生をどうみるかといった視点での回答が多く、学生の可能性や学

生の立場に立つなどの記載があった。指導は、学生をどうみるかで接し方が変わることがわかり、学生に接することを楽しみとさせる学生観の変化をうかがわせた。次の【ふりかえりの実施】(7)では、講義内容から、演習での話し合いから、自身の教育観のふりかえりができた記述が多かった。ふりかえりは、本セミナーの中心的構成要素であり、ふりかえることで自身の知見を深め、今後の指導に役立つものとなっていくと推測された。これに続く他のカテゴリ【指導者の役割の再認識】(5)、【悩みの共有化】(4)、【看護観の再構築】(3)、【学生と一緒に学んでよい】(2)は、ふりかえりをさらに具体化した内容の記述がみられた。【その他】(6)は単独としてのコードを1つのカテゴリとした。そこに記述されていた「楽しかった」、「学習し続ける」、「新鮮な気持ち」、「新しい発見」、「難しさ」などは、受講者として体験した感じ方が滲みでており、受講者が本セミナーを自身の経験として受講した結果と考えられた。

本セミナーでは、講義と自身の経験の対比、さらには演習のなかで発言することで、自身の経験の「不安定さを仲間との話し合いによって確かめる」(鈴木, 1992)ことが可能であり、この対話が課題解決型学習(Freire & the children of Paulo Freire, 2010)をもたらし、受講者の必要(潜在的な要求)を明確にする「要求のほりおこし」(鈴木, 1992)の機会となつて、受講者への指導へのモチベーションが向上したのではないかと考えられた。

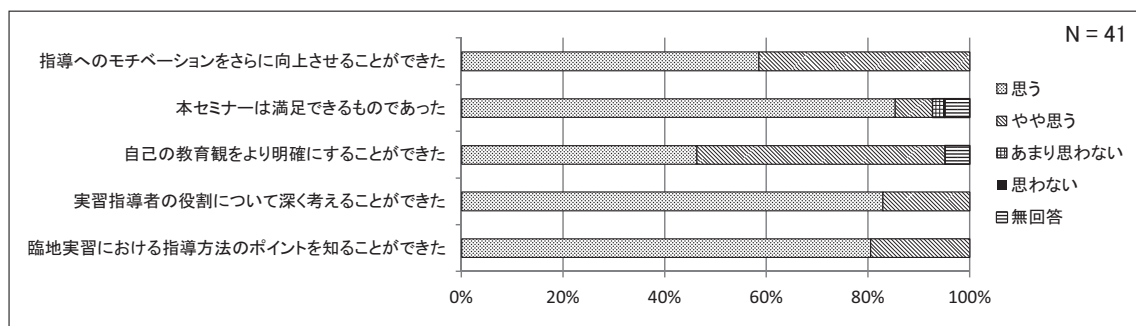


図2 指導へのモチベーション、目標達成度、セミナー満足

3) 目標達成度、セミナー満足度

本セミナーでは3つの目標として、①自己の「教育観」をより明確にすることができる、②実習指導者の役割について深く考えることができる、③臨地実習における指導方法のポイントを知ることができる、を掲げたが、これらの目標達成については、「思う」「やや思う」が95.1% (39人)～100% (41人)であった。セミナー満足度では、「総合的に満足できるものであった」は、「思う」「やや思う」が92.7% (38人)、「あまり思わない」が2.4% (1人)、「無回答」が4.9% (2人)であった。「思う」と回答した割合が昨年より3割増え、目標達成度の高さを関連づけた結果であった。

4) 交流会・文献検索ガイダンス

2日目の昼食時間に交流会として、各グループに教員1～2名が入り、情報交換の場を持ちその際、実習室での学生の演習光景をビデオ映像で紹介した。

また、文献検索は任意参加とし、館内のラーニングcommonsではノートパソコンを1人1台使用し、文献検索の実際についてのガイダンスを実施した。

これらの企画について「有意義であったか」を尋ねた。交流会については、「思う」「やや思う」が95.2% (39人)、「あまり思わない」と「無回答」はそれぞれ2.4% (1人)であった(図3)。これは過去の交流会の回答に比べ2割ほど高く(吉田ら, 2013, 2014)、交流会を昨年に引き続いた形で実施し、担当者が昨年の反応を参考にしながら運営した結果とも考えられる。交流会は教員にとっても情報交換の場として貴重なものであり、今後も継続が望ま

しい。

文献検索ガイダンスは任意として行ったが、参加者は26.8%に留まっている。しかし参加した受講者の「有意義だった」とする回答が100%であり、文献検索後にさらに図書館を利用する受講者がいた。洋書、和書の蔵書数、データベースを複数所有する大学図書館の機能紹介となる文献検索ガイダンスは、受講者のニーズへの対応として今後も継続する方向で検討する必要がある。

5) セミナーで得たことの活用場面

セミナー内容について、「今後実際に使ってみよう・意識してみようと思ったこと」を自由記述で尋ねたところ、【学生指導の場面】、【スタッフ指導の場面】、【その他の場面】それぞれに記述があった。

【学生指導の場面】についての記述は76記録あり、そのカテゴリは「自己紹介をする」、「学生の思いを知る」、「学生との関わり方」などであった。最も記録が多かった【学生指導の場面】を表3にした。記述が最も多かったカテゴリが「自己紹介をする」であり、この記述からは自己紹介のあり方が効果的な指導につながることや、学生の立場からみた自己紹介内容の必要性を確認できたのではないかと考えられた。次に多かったカテゴリ「学生の思いを知る」、「学生との関わり方」の記述からは、指導は目の前の学生を知ることから始まることを講義で学び、さらに学習者の立場を演習で追体験した得た結果が反映されているのではないかと考えられた。

【スタッフ指導の場面】についての記述は40記録あり、そのカテゴリは「学生指導」、

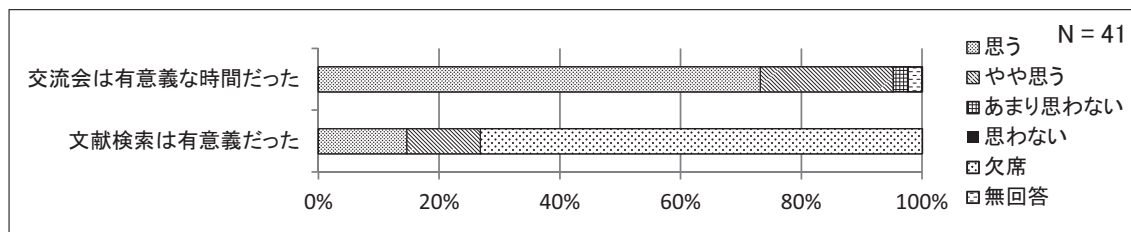


図3 交流会、文献検索

表2 指導へのモチベーション向上の理由

記録単位 54

カテゴリー	コード	内容
指導方法の獲得 (19)	実習目的・目標を知って学生への対応を考える	実習目的、目標を知ることで学生への対応を考えられるようになった
	記録へのコメントの方法が参考になった	実習記録へのコメントの内容に悩んでいたので参考になった
	学生が看護を楽しんでいる環境を作っていた	学生が看護を楽しんでいるような実習環境を作っていたら良い
	これまでの指導方法の根拠を学べた	手探りで臨床指導にあっていたが、その根拠やベースにあるものがしっかりと学ぶことができた
	指導方法の具体的なポイントが解ってきた	指導をどうしてあげることが良いのか漠然としていたが、具体的なポイントが解ってきたので自分の中で消化させ、現場に生かしたい
	指導に不安があったが次回からの方向性が見えた	指導に正解はないとしても不安は大きくあった 参加して不安でなくなったわけではないが、次回からの方向性が見えた 実際には感じていきたい
	自分のやり方として自信が持てた	「これを取り入れたいけど」と思っていたことに自信が持てた
	指導方法が詳しく理解できた	指導方法など詳しく理解できた 臨床でも活用したい
	指導者として必要な知識を得ることができた	実習指導者として必要な知識を得ることができた
	様々なやり方がある	同じグループ、全体の意見、先生方の意見を聞き、様々なやり方がある良いということ学んだ
	他の指導者の方法を自分の指導に活かしたい	グループワークをすることで他の指導者さんがどのように助言しているのかを知ることができ、自分の指導にも活かしていきたいと思った
	指導を振り返り改善点が見つかった	日々の仕事に追われ自分の指導についてふりかえることができていなかったが、改善すべき点も分かったので実習に生かしていきたい
	新たな指導方法や関わり方を見いだせた気がする	受講することで、こんなことができる、こんな気持ちで関われば良いと以前に比べモチベーションが向上したと思う
	これからの学生指導方法に多くのアイデアが浮かんだ	まだ学生指導をしたことはないが、やってみよう、こうしたら良いのかなと思うポイントがたくさん見つかった
学生への接し方の変化 (8)	学生が看護師になりたいと思えるように伝えていければいいことを知った	学生の良いところを見つけて活かせるように、なにより看護師になりたいと思えるように関わり伝えていければいいという事を知った
	受講を通して意味のある効果的な指導ができそうだと考えた	学習をすることで何となくの指導ではなく、意味のある効果のある指導ができそうだと考えた
	「ほめる」ことをやってみよう	「ほめる」少しずつやってみよう
	楽しくやってみよう	どうせやるなら楽しくやってみよう
	指導のきっかけをもらえた	理想と現実の差は、一人ではどうにもならない きっかけを頂いた分「3」とした 個人的な部分では「4」と思う
	学生の可能性を引き出したい	学生は少しでも可能性を持っていると思う そこから自分がどれだけ引き出せるか夏休み明けの実習から楽しみだと思った
	学生の現状を知って指導にあたる必要性	現代の学生の状況を改めて知った これを知ったうえで指導にあたる必要があると感じた
	学生との育つ助けになる要因に気付いた	何となく聞かれたことだけに答えるのは相手が育つ助けになってしまおうと気付いた
ふりかえりの実施 (7)	学生の立場や気持ちを考えて	学生の立場、気持ちを考えながら実習に入っていく
	多方向から学生を見ることができそう	1方向からではなくいろいろな方向から学生を見ることができそう
	学生と接することが楽しくなった	学生と接することが少し楽しみ
	学生に対する接し方を変えることができた	学生指導については実感がなく不安もあるが、今後は学生に対する接し方を変えることができる
	学生の見方を変えて指導にあたることのできる	学生を一面からしか見えていない部分があったが、受講して、見方を変えて指導にあたることのできる
	自分のふりかえりができた	自分のふりかえりができた
	自身の看護観を振り返り学生に伝えたいことを明確にできた	グループワークのディスカッションを通し、自身の看護観を振り返り、経験してきたことを立ち止まって省みることで学生に伝えたいことが明確化できた
指導者役割の再確認 (5)	自身の看護観・教育観を振り返ることができた	自身の看護観、教育観等においてふりかえりができたこと
	自分の看護観・教育観を再認識し深められた	他者の考えを聞くことで自分の看護観・教育観を再認識し、深められたと思う
	自分の指導中の態度を振り返る	自分は今まで怒ってばかりだったのではないかと思った
	指導とは何かを改めて考えるきっかけになった	今年から指導者となり初めての事ばかりで戸惑うことが多くあったが、受講し教育とは、指導とは何かを改めて考えるきっかけとなった
	自分の指導内容の良さを再認識できた	自分自身が持っている指導が学生のために役立っているであろうことを再認識できた
悩みの共有化 (4)	受講して自分なりに頑張ろうと思えた	これまでの実習指導で嫌だと思える気持ちと楽しいと思う気持ちで、すっきりしない部分があったが、研修を受けて自分なりに頑張ってみようと思った
	自分の役割がより明確になったと感じる	学生と行動を共にすること、成功体験をしてもらうことや記録が指導者にとっても意味があることなど、多くのことを学び自分の役割がより明確になったと感じる
	受け身で指導者をしていて、受講して意識が変わった気がする	何となくやれと言われたからやっていたが、今回勉強したことで意識が少し変わった気がする
	指導者の役割を学んだ	どのような方法、手順で指導したらよいか心配だったが、指導者の役割を学びどの段階なのか差を埋められるように指導できたらと思う
看護観の再構築 (3)	学生のやる気を出すが指導者の役割だと実感した	やる気を出させるのが指導者の役割だと実感した
	悩みを共有できて不安が減った	グループワークをする中で、みんな悩みはほとんど同じなので、セミナーで少し不安が減った
	思っていることを共感できて励みになった	日頃思っていることや感じていることを話し合ったり共感することができ、自分自身も頑張ろうと思えた
学生と一緒に学んでい (2)	研修を通して肩の荷が下りた	研修を通して肩の荷が下りた
	教育とは、引き出すこと・育つことだとわかり気持ちが楽になった	今までは指導が苦手でどのように行えばよいかわからなかったが、教育とは引き出すこと、育つことだとわかり、気持ちが楽になった
その他 (6)	看護は素晴らしいと思えた	看護って素晴らしいと思えた
	指導だけでなく、日々の業務や自分自身の看護への思いもアップした気がする	指導だけでなく、日々の業務や自分自身の看護への思いもアップした気がする
	看護観について、振り返りの中で看護師として日々できていることがあると確信でき、自信やモチベーションの向上につながった	看護観について、振り返りの中で看護師として日々できていることがあると確信でき、自信やモチベーションの向上につながった
	学生と一緒に学びたい	私もいっしょに学んで行けるように関わり大切にしたい
	学生と一緒に学んでいければいいと思えた	研修前は学生を指導することが自信もなく苦手だったが、研修を受けて学生と一緒に学んでいければいいと思えた
実際の業務の中で時間的検討は必要だと感じた	受講内容が全て楽しかった	とにかく授業・講義・グループワークが楽しかった
	学習し続けなければならない	生きている限り学習し続けなければならないと思う
	学生時代の新鮮な気持ちに戻れた	3日間だが、学生に戻った新鮮な気持ちになった
	他者の考え方を聞き新しい発見ができた	他の病院の方や教員の考え方を聞き新しい発見ができた
	やはり指導は難しい	他施設の方から話を聞き、自分の指導方法と違いがないかなど悩んでいたことも聞くことができた しかし学生指導は難しい

表3 学生指導の場面

記録単位 76

カテゴリ	内容 (原文のまま)
自己紹介をする (13)	自己紹介をする(4) 自己紹介を和んだ感じでやっていきたい 指導初日の自己紹介 少しラフな自己紹介 自分の紹介の大切さも知ったのでやってから近づいていきたい 最初のあいさつ 自己紹介や好きなものの話したい 実習初日のあいさつ、自己紹介やオリエンテーションをもっと工夫する ウェルカムボードを使用するというのはびっくりした。学生を迎え入れることを考えたことはなかった 学生の立場を踏まえて緊張を解せるような初日の実習
学生の思いを知る (10)	学生の見ているもの、見えているものを確認しながら指導したい 実習の進み具合だけでなく、学生個人の思いや考えに目を向けたい 学生をアセスメントすること 学生の思いをもっと大切にしていきたい どうしてそう思うのか、そう感じたのかをアセスメントしてから関わる まず学生を知ること ずれが生じないように意識してみる 実習の段階、前回の経験を意識したい いいところや、なんとかして実習を達成してほしいため、一人一人と全力で向き合いたいと再決意した 学生さんと一緒にの視点に立って一緒に学んでいきたい 一方的な問いかけをせず、本人の意図や学習状況、患者理解の程度は受け止めていきたい
学生との関わり方 (10)	本人のペースを大切に チェック屋にならずビッグマリオン効果を持ってかかわっていきたい 学生がいつも緊張していること、不安に思っていることを忘れずに接したい 個性を最初から求めない 朝・夕に必ず学生に声掛けする 自分自身、穏やかにゆったり優しく接したい 自ら学べるように関わっていきたい 病棟オリエンテーションは、学生さんの興味のあるところから見学してみようと思う できるだけ多く学生と行動を共にすること 将来の看護師(学生)に期待をしてみようと思う
できることを見つける (8)	良いところ、できたところを見ることが大切 できない人はかりに目が行き「これもできない」「あれもできない」とできないところを指導していたが、メンバー全員のできているところをみていきたい 良いところ、できているところに気付いてあげられるようにしたい 学生の持っている良い部分に視点を向けて関わる 事前の学生情報から先入観を持ってしまっていたが、その学生のできたことに目を向けて指導していきたい できないところに焦点を向けなくてもまずは出来ることを見つけ、学生の個性を大切に ほめてあげよう それから指摘してみる 学生の個別に合わせた方法が大切 比較せずできていることを認める 「どうしてそう思ったの」「次はどうしたらいいかな」などの発問をしていきたい 質問ではなく発問を心掛けて考えを引き出せるように関わってみる 発問をいっぱいする
発問する (8)	発問すること 困ったときは発問しながら実習の参考になるようなアドバイス 質問よりも発問を意識する タイムリーな発問 考えを作り出す発問をすることが重要 できたことや、今をほめてあげよう意識しながら指導したい まずはほめること 悪いところではなくいいところを見つけてほめる ほめること 学生の良いところを見つけて褒め、成功体験にする まずは出来ていることをほめる ほめること
自己開示をする (7)	看護師になりたいと思えるように私の看護観を伝える 自分の看護についても伝えていく 自分の大切にしたいことを始めに伝える 私の感じた気持ちをまず伝える 自分の実習スタイルを伝える 実習の目的を伝える 自分の指導スタイルや学んでほしいことの伝達
実習記録の活用 (6)	実習記録へのコメント・教育観の再構築で習った内容できるだけやってみたい 学生の置かれている状況、カリキュラムの特徴などを理解したうえで記録へのコメントや指導、教育観の再構築で学んだ一つ一つを心掛けて学生と接したい 記録のコメントの書き方 記録を指導に生かす 記録から学生の状況の把握 コメント
成功体験への関わり (5)	最終日は達成感をもって終了できるようにできるだけコミュニケーションを多くとり学生を知ってほしい いいところや、なんとかして実習を達成してほしいため、一人一人と全力で向き合いたいと再決意した 楽しい実習だったと思えるように関わりたい 成功体験ができるように 学生との関係を作り、今後の方向性に到達できるよう、成功へ導けるように指導できたらと思う
教育観の再構成 (3)	教育観の再構築で、実習中にありがちな場面で指導者としてどう言葉がけ、反応を返したらよいか参考になった 実習記録へのコメント・教育観の再構築で習った内容できるだけやってみたい 学生の置かれている状況、カリキュラムの特徴などを理解したうえで記録へのコメントや指導、教育観の再構築で学んだ一つ一つを心掛けて学生と接したい
ダブルバインドをおこさない (2)	ダブルバインドを行わない ダブルバインドをしていたので気をつける

「相手のよいところを見つける」、「新人指導」、「病棟全体への伝達」、「発問をする」、「コップの一滴を意識した関わり」であった。【その他の場面】についての記述は8記録あり、そのカテゴリは「自身のふりかえり」、「家族との関わり」であった。それぞれの場面に共通することは、受講者がセミナーで得た知識・方法を活用してみたいとイメージできていることであった。本セミナーで得たことを今後の学生指導場面で使ってみようとする記述が多かったが、スタッフ指導場面、そして家族の中でも使えるとしているように、指導者は指導者であるまに生活者として自然にふるまうことの大切さを感じてもらえたのではないかと考えられる。

IV. 臨地実習指導者研修セミナー評価と今後の課題

- 1) 9つのセッションの全てで、受講者の8割強が参考になったと回答しており、満足度も高かった。
- 2) 受講者の受講後の指導へのモチベーションは向上し、目標到達度も同時に高かった。
- 3) 指導へのモチベーション向上の理由は、新たな指導方法の獲得や学生への接し方の変化などがあり、これまでの指導をふりかえりつつ受講されていたことが窺えた。
- 4) 受講者は、演習によって悩みを共有し、経験の不安定さを解消させると同時に自らの潜在的学習要求をあきらかにさせながら、セミナーを受講していると考えられた。今後も演習を重視しつつ、講義と組み合わせたプログラムを用意することが望ましい。
- 5) 今年度から参加者募集を拡大して行ったが、次年度も継続して募集範囲の拡大を図り、多様な受講者で構成できる機会に

するとともに、本セミナーを多くの指導者の方々が体験できるようにする。

謝辞

今回アンケートにご協力いただきました受講者の皆様に感謝申し上げますとともに、臨地実習指導者研修セミナーへのご理解と本学の教育へのご理解・ご協力をいただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

文献

- Freire, Paulo, & the children of Paulo Freire (2010)/三砂ちづる訳(2011). 新訳被抑圧者の教育学. 亜紀書房.
- 文部科学省(2016). 高大接続システム改革会議; 高大接続システム改革会議「最終報告」, 2016/4/1, Retrieved from <http://www.mext.go.jp/>
- McClelland, D.C.(1987)/梅津祐良, 藺部明史, 横山哲夫訳(2005). モチベーション: 「達成・パワー・親和・回避」動機の理論と実際. 生産性出版.
- 住岡英毅(1983). 成人教育の対面的側面: パウロ・フレイレの所論を中心として. 滋賀大学教育学部紀要, 33, 93-104.
- 鈴木敏正(1992). 自己教育の論理: 主体形成の時代に. 筑摩書房.
- 田尾雅夫(1998). モチベーション入門. 日本経済新聞出版社.
- 吉田文子, 堀内ふき, 橋本佳美, 水野照美, 宮崎紀枝, 鈴木千衣, …征矢野あや子(2012). 「臨地実習指導者研修セミナー2011」報告: 修了後のアンケートからみた評価. 佐久大学看護学研究雑誌, 4(1), 59-65.
- 吉田文子, 征矢野あや子, 橋本佳美, 水野照美, 宮崎紀枝, 鈴木千衣, …堀内ふき(2013). 「臨地実習指導者研修セミナー2012」報告: 修了後のアンケートからみた評価. 佐久大学

- 看護研究雑誌, 5(1), 31-37.
- 吉田文子, 高木桃子, 征矢野あや子, 橋本佳美, 水野照美, 宮崎紀枝, …堀内ふき (2014). 「臨地実習指導者研修セミナー2013」報告：グループワークがもたらすグループ・ダイナミックスの形成過程とその背景. 佐久大学看護研究雑誌, 6(1), 29-38.
- 吉田文子, 内山明子, 梅崎かおり, 橋本佳美, 鈴木千衣, 八尋道子, …堀内ふき (2015). 臨地実習指導者研修セミナー評価：看護管理者によるセミナー追体験後のアンケート. 佐久大学看護研究雑誌, 7(1), 55-64.
- 吉田文子, 清水千恵, 中澤淑子, 橋本佳美, 鈴木千衣, 八尋道子, …堀内ふき (2016). 「臨地実習指導者研修セミナー2015」評価：目標達成度と自由記述に焦点をあてて. 佐久大学看護研究雑誌, 8(1), 91-99.